

パーマネントコース模範生

「秦野弘法山」コース 神奈川県

昭和 46 年の開設から 44 年。今も当時と変わらぬコースを回ることができる奇跡の名コース、秦野弘法山コースを紹介します。

「秦野弘法山」コース 神奈川県 No.7
JOA 公認 No.7 10km 10 ポスト

少年の日の記憶

私の初挑戦は昭和 57 年。6 日後に 13 歳の誕生日を控えた少年時代の夏の日でした。それ以来 33 年ぶりの再訪です。当時の写真を持参して、記憶に残る景色との再会を楽しみにしながら、現地を訪れます。

小田急電鉄小田原線鶴巻温泉駅へは新宿から 1 時間ほどの好ロケーション。私は藤沢駅から相模大野で乗り換えて向かいます。スタート地点は駅北口改札を出てすぐのところ。地図はセブンイレブンのネットプリントでも入手でき、時間のロスなくスタートできます。

印刷されたマップも改札横の OdakyuSHOP でも取り扱いがあり、1 枚 150 円で入手できます。

駅前の風景は 33 年前の写真と重なるところが 1 つもないほどに一変していました。改札正面から左手に下る階段脇に案内板は設置されています。現地で購入したマップにはコース図が記されていませんので、ここで転記します。古い地図と比べると、第 6 ポストのみ西寄りに移設されていますが、その他は忠実に往時のコースを踏襲しています。



鶴巻温泉駅前をスタート

コースの様子は平成 2 年に日本書籍から刊行された『たのしい野外教室③オリエンテーリング』のグラビアペー



ジで紹介されています。コースを楽しむ少年少女の笑顔や、真剣に地図に向き合う姿がパーマネントコースの魅力をもっと伝えてくれています。取材から四半世紀が経ったいま、親になっているであろう彼女らが子供たちと一緒にオリエンテーリングを楽しんでくれているなら、こんなに嬉しいことはありません。

売店で地図を買い、マスターマップからコースを写し取るという、今では懐かしくも思える手順でスタート前の準備を済ませ、9 時 57 分に歩き始めます。

33 年前を思い出しながら

おろし立てながら早くも足にフィットしている新しいシューズを履いて、軽快に街中を進んでいきます。緩やかに登り気味の広い歩道を行くと、右に左に蛇行する区間に差し掛かります。

3 度目のカーブの左手に神明神社という無人の小さな神社があり、その境内でさっそく第 1 ポストを発見します。書籍にも紹介のある独特の小型のポストが健在ですが、33 年前は標準タイプの立派なポストが鎮座していました。支柱に毛筆で記されていた「神奈川県

という文字が時代を感じさせるものでした。この神社、所在地は伊勢原市笠窪 503。ポストの手前に秦野市との境があり、第 3 ポストから第 4 ポストにかけての尾根道は市境になっています。

途中で東名高速をまたぎつつ、〇Lらしからぬ住宅地を抜けて第 2 ポストを目指します。以前の地図では高速道路の先には 1 本道が通じていただけでしたが、現在は新興住宅地が開発されて様相が一変しています。宅地の西端から用水路沿いの道を経由し、愛鶏供養塔のある分岐から従来から存在している道に入ります。このあたりから深山にでもいるような雰囲気になり、道端には「クマ出没注意」「野猿出没区域」の立て看板まで出現します。この道は奈良時代に整備された、赤坂と沼津を結ぶ矢倉沢往還の一部で、現在の国道 246 号線はこの道に沿って建設されています。大山詣でも使われたことから、「大山街道」とも言われる歴史あるルートです。小道との分岐で第 2 ポストを発見し、山間ルートに分け入ります。

快適・関東ふれあいの道

前回のレポートには「草ボーボー、クモの巣だらけ」と記されていた山道もきれいに整備されて快適そのもの。関東ふれあいの道としてハイカーの受け入れ態勢も万全です。道端にあるポストは昔と全く同じ場所に設置されています。背後にあった3本の細い樹木は倍の太さに成長し、すっかり貫録を備えていました。

尾根を伝うハイキングコースはアップダウンも緩やかで、晴天のこの日は森林浴を存分に楽しめました。行き交う来訪者も多く、世代を問わず親しまれていることが伝わってきます。「弘法山」への道標に従って歩いて行くと、道からやや奥に設置された第4ポストに到達します。

下り気味に進んでいくと、山道の途中にもかかわらず、女性一人であまなつや生落花生の戸板販売をしています。山頂で物販をする光景や信用販売はよく見かけますが、山道の途中の有人販売は珍しく、夏ミカンを切り分けて誘ってくださることもあって、足をとめてしばらく歓談となりました。歩きながら気になっていた甘い香りは、いまちようど開花しているオレンジの花の香りだそうで、道の東側に広がる果樹園には白い花が咲き誇っていました。土日のみこうした販売を行っているそうですから、出会ったら朝採れの自然の恵みを味わってみてはいかがでしょうか。1個50円のあまなつを購入して、コースめぐりを再開します。弘法山に向かうやや急な坂道の途中で第5ポストを確認し、ほどなく山頂に到達します。



夏みかん配布中

山頂には鐘楼や弘法大師を祀る釈迦堂のほか現役の井戸まであり、お弁当休憩をする多くのハイカーで賑わっています。井戸の水は、白く濁った乳の香りのする水がかつて湧いていたことから「弘法の乳の水」と名付けられ、飲むと母乳の出がよくなるものとして重宝されていたという言い伝えがあります。今では無色透明ですが、喉の渇きを潤すやわらかい味の水は、疲れた

体を癒すご褒美です。



弘法の乳の水

小休憩をとってから山を下り、見晴らしのいい開放的な場所に立つ第6ポストに到達します。

次の第7ポストのある南矢名八幡神社は前回お弁当休憩をとった思い出の場所で、写真を見比べると本殿が新築されたことが一目瞭然。境内にある水道はほぼ当時のまま残っていて、横にあったポストだけ消えています。現在のポストは夏場になると藪に埋没してしまいそうな場所に移設されています。

山間部はここで終了です。山裾を東に向かい、急な石段を上った先にある第8ポストは菅原神社にあり、おおね台団地を経由して第9ポストは石座神社に設置されています。第9ポストの前の写真を見ると、ポストはわずかに移設され、後方にあったシーソーもその場所にはありません。余談ですが、「おおね」は漢字表記では「大根」と書き、現在の東海大学前駅は1987年までは大根駅と名乗っていました。改称にあたり実施された住民アンケートは7割の反対があったものの、駅改修に東海大学が資金提供したことが小田急を動かしたようです。



極楽寺の最終ポスト

東名高速を再び越え、極楽寺前で最終ポストを確認します。線路沿いまで下ると鶴巻温泉駅はもう目の前。所要3時間21分でゴールです。

終了後、駅前にある芳甘菓（ほうかんか）という落花生の専門店に立ち寄

り、秦野名産の落花生を使った味噌ピーやお茶どらをお土産に購入。落花生といえば千葉を思い浮かべますが、日本で初めて栽培されたのは神奈川で、今でも秦野と大磯、二宮が相州落花生の発祥の地を主張して「落花生バトル」なるものが開催されています。

新宿から1時間の距離にある大自然。気軽に利用できるパーマネントコースの模範生として、変わらぬ姿を堪能した1日となりました。

(2015年5月17日 踏破)